



早朝から始まるゴミ収集作業

この中で殊に注意しなければいけないものが二点。ひとつは例の白い買い物袋ごと捨てられて生ゴミがたい

ていの場合一緒に混ざっているのを、これを破いて中のものを分別すること。もう一点は物陰や人目を避けた所などに散見されるティッシュです。問題はティッシュそのものではなく、おそろくその下にあるであろうもの

花火大会に連動して言っておきたいことがあります。花火にかかる費用は市からの予算と寄付金とから成り

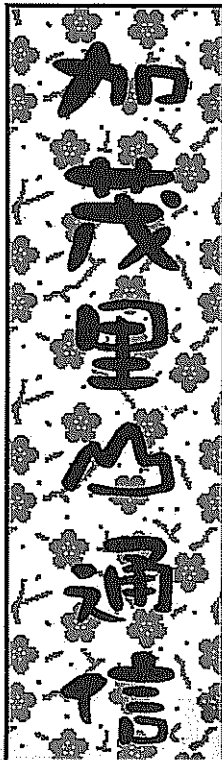
市民花火大会後始末記

今年、会場から思わず「もったいない」と声が漏れたように、8号玉はかすみの中で爆発して、その名残りが落ちてくるという、いまだかつてないほやけた花火大会になってしまいました。

この朝の仕事のハイライトは、全員で取りかかる大きなゴミ箱の中のゴミの分別作業です。これは一度ゴミ箱を取り外してしまつてから、袋詰めされた缶と生ゴミ一袋ずつ破いて分別していく作業です。缶の中の残りの液体が出るわ、強烈な匂いはするわで、この形が導入された当初は「こんなやつてらんねえよ」と言っていたのに、最近は世間話をしながら手だけは素早く動くという、実に訓練された形になつてきています。残りのゴミをほうきで掃き、すべてを終えると9時頃です。そのころにゴミ収集車がやつてきます。一般の人の目に触れる頃にはきれいさっぱりと片づいていきます。

花火に関して言えば、昨年の反省会でこのことについての意見を述べたのですが、今年もまた振り込み用紙付きの寄付金募集の手紙が同じように自営業者に送られてきています。市の運営であるなら、全額を市でまかなうか、全市民を対象に寄付を募るか、いずれかではないかと考えます。

夏の宴を終えて



平成15年秋号

発行 市原商工会議所 加茂青年部



手間のかかるゴミ分別、量もハンパじゃありません

立っています。この寄付金は花火大会のチラシの裏面に載っている企業や商店などからのものです。字の大きさはそのまま寄付金の額の相違を表しています。そこで不思議なのが、企業は別にしてどうしていつも寄付は小さな小売店を含む自営業者が対象とされるのかということです。人が出て儲かるのだから寄付ぐらいしてもいいだろうと言うのであれば、そういうところはほんの一部ではないのです。この手の寄付金は花火大会に限らず、運動会、体育祭、盆踊りといくつもありません。横並び一線の繰り返されている横並び一線

高滝湖のワカサギ釣り 今年も期待できます!



ポート代
1人乗り 2000円
2人乗り 2500円
3人乗り 3000円

遊漁料 (1日)
大人1人 600円
中学生以下1人 300円

初心者の方でも気軽に出来るのがワカサギ釣りです。グループ、ファミリーでお越し下さい。女性、お子様連れでも安心して釣りを楽しめます。

*今年度の解禁日は10月中頃を予定しています
詳しくは下記までお問い合わせを!

高滝湖観光企業組合

営業時間 冬期 6:00~17:00
季節により異なります
TEL 0436-98-1277
FAX 0436-98-1279

信頼に誠意と技術で応えます

太陽工業株式会社

ISO9001:2000 認証

代表取締役

大曾根 友三

〒290-0221

市原市馬立414-1

TEL 0436-95-3023

FAX 0436-95-2235

HP: <http://www.taiyo-i.co.jp>

E-mail: info@taiyo-i.co.jp

高滝山 加茂 白鳥小 米米くらぶ

現在時9月12日(金)。今になって夏がぶり返し、熱帯夜が続く今日この頃、明日は朝から高滝小学校の運動会が行われるという午後9時15分。第2回「里山通信」編集会議が行われているのである。言うまでもなく、秋号の打ち合わせなのであるが、なんと、私の受け持ちである「米米くらぶ」の記事のみ入稿しておらず編集長よりお小言をもらい、別室に閉じ込められてこうして記事を書いているところである。

さて前号で紹介しました 白鳥VS高滝各小学校の実習田も、白鳥生が9月4日、高滝小においては9月19日に稲刈りをする事になりました。(原稿は9月12日執筆)子供たちが楽しみにしている以上に、それまで関ってこられた保護者のほうが心待ちにしている様子です。

また、今年は冷夏に伴い米価のほうも随分と高いようですが少なからず米作をしているこの地においてはうれしく思う人のほうが多いのでしょうか？

それはさておき、新米で炊いたおいしいおにぎりが食べたいなあーそれも少しおこげの入ったご飯で握ったおにぎりがベストである。

ご飯の一番おいしい料理はおにぎりであると思う。それも各家庭ごとに微妙に違うおにぎりの味はいわばお袋の味に共鳴する部分と思う。いわば家庭の数だけ違うおにぎりが存在するのである。

私事ではあるが妻の実家のおにぎりは「デカイー茶碗2杯は楽に越える量のおにぎりである。なかの具は定番の梅干やオカシカであるが実にうまいと思う。

皆さんの中にもおにぎりに対しているいろいろな想いを持つておられる方もいると思いますが、きつとおにぎりに文化があり、思い出や思い出込みやお持ちの方も多数だと思います。ぜひ編集部へお持ちをお願いします。

「おにぎりの思い出」係まで

最後に田んぼ周りでの会話を載せておきます。子供たちに理解できるのかな？ 「こんめえまであつくなつたのに、あんで、ここんきて、こんなにあつたんだ。おらがもこんで、半分ぐれえ、終わったけんども、きようは、はあ、おわりにすつべあにしてん、はしけえから、はええとこ、家にけえつて、風呂へえつて、いっぺえやるべえ」

(戸沢通信員)

嗚呼、花の消防団

加茂支団第七分団奮闘記

花火でも頑張る消防団

消防団最大のイベント、操法大会も終わり家族共々ホッとしていると同時に少し寂しい気分を味わっている団員も多いのではないだろうか。我々第七分団も「例年の二倍以上練習しちゃったよ」とか「やつと残業できるよ」という声も聞えるかと思えば、「なんか少し寂しくなっちゃった」という声も少し聞えます。そう言えば県大会は朝から雨が降っていて仁戸名の消防学校のグラウンドも足の踏み場がないほどの最悪のコンディション。本日は最高のコンディションの中で競技したかったと思う選手団員がほとんどだったのではないだろうか。我々の分団は十一分団の中の六位。選手はタイム、規律共に最高の演技を見せてくれました。選手には四月中頃から七月末まで本場に頑張ってもらいました。周りの団員も何もかもが初めてで様々な人々に励まされたおかげでここまでこぎつける事ができました。本団にありがとうございませう。

その忙しい大会も終わり消防団の一つの区切りになりました。そして次に行われた我々第七分団を含む白鳥地区の分団が参加した「養老溪谷花火大会」です。第七分団が川から送水して第八分団が中継放水、第六分団が花火打ち上げ場所での放水を花火大会開始前と終了後に行いました。例年ならOBに搬送車をお借りして川を渡ってポンプを河原に運ぶのですが今年は雨の影響で川を横断する事が出来ず、河原まで人力で下すことになりました。大会前の送水も無事終了しブルーシートで休んでいる時に現れたのは何と蛙(ヒル)！血を吸われた団員一名。上流から流れてきたのか、鹿や猪に付いて来たのか、とうとう蛙が出るようになったか、いや、そんな小さなトラブルがあつたものの花火大会ではブルーシートに横になつて花火を見る事ができるのは消防団ならではの醍醐味なんです。何となく悪いくらいの粉が落ちてきて熱い事もあるのですが今年は風向きが良く、きれいな花火を見る事が出来ました。来年は是非見に来て下さい。

尚、最近近は物騒になったようで消防団での夜警を行いました。不審車両の報告もあつたようですので就寝前には火の元と戸締りは確認して下さい

(中村通信員)

魚屋の戯言



鯉が美味しい季節になりました。

「初鯉 銭とからしで 一度涙」

江戸時代の川柳でも知られるとおり、昔は鯉は大変高価な魚だったそうです。

紀伊国屋文左衛門が、当時日本橋にあった魚河岸の鯉を全部買い占めて今日江戸で鯉を食べられるのは私一人だと言いながらその内の一本だけを食べて満腹だったの有名な話ですが、今はそんな悲しい話ではなく、誰にでも食べられる魚になっています。

古来、鯉の旬は初夏とされてきました。が今は冬以外はほぼ年間を通して捕れています。鯉は鯉を求めて1月から2月フイリン沖を北上し、台湾、香港、九州、四国沖を通過して和歌山に着くのが3月ころで、走り鯉と呼ばれています。更に銚子、金華山沖でたつぷり鯉を食べて体力をつけ、今度は南下し始めますがこれが「戻り鯉」と呼ばれているもので9月から11月まで房州沖で捕れるのが最高の鯉だと思います。

もともと「ふん、脂ののつた鯉なんかおかしくって食べられるかー」そんな名セリフを残して頂いた養老のS谷電気社社長さんのような粋なお客様もいらつしますが、やはり戻り鯉は人気があります。今年は是非充分に脂ののつた戻り鯉もご賞味下さい、曾Y電気社長さん

勿論お刺身で美味しく召し上がって頂きますが、タタキもよくご注文を頂きます。この時期の大ぶりの鯉は脂肪がたつぷりのついでに、金串を打って強火で炙るとパチパチと脂が飛んで思わず自分で食べてしまいたくなる程です。表面に焼き目がついてからは水にさらす方法もありますが、どうも水っぽくなつてしまうので私はそのまま冷蔵庫で冷やします。

あとは薬味とポンズで頂きます。冷えたビールを用意して、厚めに切ったその光り輝く身を口に放り込んだら一日の疲れなんぞ100万光年の彼方に吹っ飛びますよ！

(鈴木通信員)

サークル紹介

「フルール」トールペイント教室

トールペイントをご存知でしょうか？

トールペイントは古くヨーロッパが発祥地でブリキや木に素朴な絵を描いたのが始まりとされています。やがてヨーロッパにトールペイントとして定着しアメリカに渡りましたがさらにアメリカでは独自のアメリカントールペイントが生まれました。こうして今でも大きくヨーロッパとアメリカに分類されて進化しています。日本で生まれたトールペイントもありました。ここ数年年齢性別を問わず楽しめるクラフトとして日本でも大人気です。

95年から始めたお教室も8年が過ぎました。スタート当初から一貫して「安らぎ」「癒し」を作品のテーマにしています。この地に暮らしてからは自然がより身近にあるためナチュラな物に心がけられます。自然に風景や動物を描く事が多くなり、オリジナル中心に描いています。素材は友人にカットして頂いていますのでより自由な作品作りが楽しめます。ヨーロッパもアメリカもどちらも好きなので描きたい時に自由に描いています。

少人数制のお教室はいつも和気あいあいとした楽しい時間を過ごしています。筆の使い方から始めますので初心者の方でも安心です。これからも益々楽しい作品を描いていきたいと思っています。どうぞお気軽にご連絡ください。

連絡先 市原市外郎田33315 画9811388
カントリーショップ「フルール」大塚 雅子
お教室は各曜日(月二回)
第2・第4火(金)第1・第3土(日)があります。

HP <http://homepage3.nifty.com/full-ru/>
編集部より 大塚さんは先日アメリカで開催されたコンテストで入賞され、DACAの資格を手に入れました。またボブス画法のインストラクターでもあり、南総公民館で行われているトールペイント教室の講師でもあります。



ワンちゃん達も待ってます

加茂中教育講演会開催!!

テーマ

「福祉・共に生きる」

津軽三味線と二人の人生

講師

「吉井一夫・まり子」

吉井 一夫・まり子

「吉井一夫・まり子」

講師プロフィール

吉井一夫 昭和22年 山武郡成東町生まれ
吉井まり子 昭和27年 千葉市稲毛生まれ
共に血液型はA型星座は山羊座

吉井一夫さんは不慮の事故により高校時代に、まり子さんは中学時代に共に光を失いました。お二人とも盲学校を卒業後、鍼灸師として活動し、結婚。盲学校時代にロックバンドを組んだこともあり、津軽三味線の高橋竹山師の講演に感動し、その後の努力の結果、本業の傍ら民謡教室を開くまでに至ります。お二人は津軽三味線と二人の人生と題し、歩んでこられた人生を巧みな三味線を交え、視覚障害者の心情を語り、各種講演で活躍されています。

日時：十一月八日(土)

午後一時三十分～二時

場所：加茂中学校体育館

お問い合わせは加茂中学校(96)0042まで

市民体育祭開催



10月12日(日) 加茂中学校グラウンド
予備日は13日(体育の日)

加茂中バザー献品のお願ひ

10月12日の市民体育祭では お馴染みの加茂中バザーが今年も実施されます。学校、PTAでは売上の協力とともに献品のお願ひもしています。献品は直接加茂中まで。

金蔵院の秘密

鳥見坊主

うちのお寺(霧尾山金蔵院)は真言宗豊山派のお寺で、本尊は地藏菩薩様である。
真言宗はご存知のとおり弘法大師空海が開いた宗教で、豊山派はその一派であり、総本山は奈良県桜井市の長谷寺である。先日二週間ほど研修に行っていたが、山一つまるごと境内という感じで、環境としては私好みの良いところであった。毎朝、この本尊の十一面観音様に見守られて勤行を行っていたが、観音堂からの眺めは最高で冷夏だったこともあり気持ちよくお勤めしていた。
さて、私はまったくお坊さんの世界とは関係のない生活をしていただけであるが、最終的には結婚して妻と共に現住職の後を継ぐことを決断したのである。まずお坊さんになるためにクリアしてきたことについて話をしようと思う。

真言宗の場合、まず出家の儀式(得度)をする。ここで僧名(壇信徒の方の戒名にあたる)が与えられる。次に、仏様と一体になるための修行(加行)を行う。修行が終了すると仏様との契約の儀式(灌頂)(壇信徒の方の場合は葬式のときに修行)をして僧侶としての資格を得る。これだけだと住職になったり弟子を取ったりできないので、真言宗の大学に行ったり本山の研修に行ったりして資格を取る。今一回私が行った研修もその一つである。
私の場合本職が県職員なので、そちらを続けながら資格を取らなければならず、大学に通うという選択はなかった。研修に行くに受験資格が得られただけで試験に合格しなければ資格が取れないのだが、ともかく来年もう二週間研修に行つて試験に合格すればいっちょまえの坊さんである。

今年からぼちぼち二足の草鞋を履くことになるが、実は三足だと自分では思っている。というのも、趣味がバードウォッチングなのだが、これがまた半端でないくらい好きなのである。

鳥手子とでも言うか。今でこそ体力が落ちてきたのでめったにしないが、学生時代は、愛知で珍しい鳥が出てくると聞けば、その日の夜に車で出発し現地に



金蔵院本堂

戸面直売所

戸面直売所

戸面直売所は加茂地区最南端の養老溪谷温泉街にあり、温泉街入り口の旧養老溪谷ドライブイン前に店を構えています。
店の看板には「養老溪谷直売所」と書かれています。これは観光客への告知を考慮した表示のようですが、ここではあえて「戸面直売所」とさせていただきます。
直売所の歴史は古く、今は亡き戸面ヤシの関谷益夫さんが細々と創めたのが15年程前の事で、その頃は今のような小屋はありませんでした。そしていまから10年程前仲間が加わり、小屋を建て、現在は四軒の農家が出店しています。

メンバーは、代表の秋葉半司さん、関谷さだ子さん(創業者 関谷益夫さんの奥様)、鶴岡はるさん、関谷啓治さんの四人です。皆、70代後半～80歳少し過ぎの産直働き盛りですが、最初の頃はお客様に話しかけるのもあまりできず、接客の面で苦労したようです。そんなメンバーの人も今は日曜日の開店を楽しみにしています。まず、皆とお話ができる事で情報収集や気分転換にもなり、さらに自慢の品が喜んで買ってもらえることなすのです。自慢の品物は、秋葉さん、関谷さだ子さんが主に野菜一般、鶴岡はるさんが椎茸(養老溪谷椎茸として全国に出荷している有名な鶴岡椎茸園です)そして10月になると、自然薯の達人、関谷啓治さんの見事な自然薯が並びます。土地柄、お客様は殆どが観光客で、地元ではホテル旅館の人たちが良く利用することです。で、観光シ



どれも品質は折り紙付き!



左から関谷さだ子さん、秋葉半司さんの奥様、みち子さん、鶴岡はるさんの看板娘達

戸面直売所営業案内
営業日：日曜・祝祭日
時間：午前7時～午後4時30分
代表者：秋葉半司 (96) 0863

「ズンか否かかなり売り上げの差があるようです。前に、忙しいときは一日に何万も売ったんだけど今年の8月は全然だめだね」と、冷夏の影響も大きかったようです。でも戸面の人達は全く暗い顔を見せません。「(品物が)売れても売れなくても、皆でお茶を飲んで話をするのが何より楽しみなんだよ。そうして続けていくことで必ずやっていると、遠くからもアテにされてくれる」と皆口を揃えて言ってくれます。そんな仲良く優しい雰囲気でお客さんを迎えることで少人数でも長く店を続けられているのだと思います。
これから養老溪谷は「菊まつり」から紅葉の季節と、多くの人が訪れる時期になります。戸面直売所のご繁盛を願いたいものです。(佐久間通信員)



日高邸跡のカエデ

コースも4分の3位は来た所の左側に高さ20m、長さ80m位の大きな断崖

イライラ仕事も一段落し、気分転換に静かな所を歩きたくなって久々に梅ヶ瀬なんぞに行ってみました。
梅ヶ瀬渓谷は何度か来ていますが、いつも紅葉の時期ばかりで、他のハイカー達とにぎやかなハイキングをしていました。今回は、まあこんな時期(9月上旬)だから人もいなくて、特に何も見るものもないだろうと思いついて朝生原隧道を抜け、真つ直ぐ300mほど入ったいつもの駐車場を目指しました。やはり駐車場には車は一台もありません。それでも今日の目的は、自然の中で一人静かに散歩を楽しむことなので、よしとして、梅ヶ瀬の奥にある日高邸跡をめざしました。間もなく、遊歩道左側の木が大分伐採されているのに気が付きました。すぐ脇を流れる川に陰になっていた川面がよく見えます。遊歩道を広げる計画でもあるのでしょうか？

15分位歩くと地層の見える大小の壁がかなり近くに現れるようになりました。冬にはその壁に大つらな群が出来ることで、ここ数年テレビや雑誌などで取り上げられていたようです。私の小さい頃にはつらな群がその辺で沢山見られたように思いましたが、今考えるとあまりありません。今度は是非、冬に大つらな群を見に来たいと思います。(朝早くなければダメかな？ 苦手だな……)

歩き始めて25分位、コースは川から離れて温泉を巻く様になつていきます。温泉は川廻しの跡のようにも見えます。温泉には梅の樹が何本もあります。昔、この地に入植した日高誠実が梅の樹を植えたことで「梅ヶ瀬」の名が付けた様ですが、この樹もその時のものなのでしょう。また梅の花の時期にも来たくなつてしまいました。

歩きながらコース右側の高い崖の上を見ると、カエデなどの木が夏の光にまだ青々としています。紅葉の時期を思い出すと、あの崖の上の紅葉が青空に映えていたのが目に浮かびます。

あ・そう言えば誰かが「天空のふみ」なんて洒落た名前を付けてウケていました。

コースも4分の3位は来た所の左側に高さ20m、長さ80m位の大きな断崖

小さな旅

加茂再発見



が現れます。「梅ヶ瀬の大かべ」です。この壁は北向きなので、冬に出来たつらな群が溶けにくく、大つらな群が成長する最高のポイントだそう。壁に近付いて想像しただけでもワクワクしてきます。

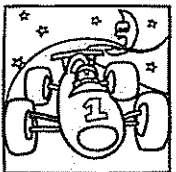
大福山に向かう尾根ルートとの分岐にあるベンチでひと休みして、もうあとわずかの「日高邸跡」に向かいます。そういえば5年前位前に来た時、この付近の川にある倒木、沢山の自然の「なめこ」がありました。それから毎年秋には来ていますが見ていません。どうしたのか？

そしてスタートから約1時間、梅ヶ瀬最深部の日高邸跡に到着です。ここは川面より少し高いので、せせらぎの音が無くなり、静寂の中。川沿いを歩くのも気持ちいいですが、ここで静かにしていると、この瞬間だけでも昨日までのモヤモヤ・イライラをすっかり忘れさせてくれます。そして側には、日高邸の守り神の様なカエデの太木がここを見守っています。

……さあそろそろ引き返すしようかな。また1時間余りで浮世に戻らなくちゃならないのはちょっと寂しいけれど……

クラシックカーがやってくる!!

ミッレ・ミリア2003



クラシックカーのラリーとして第7回目の開催となる「ミッレ・ミリア2003」(主催テレビ朝日・FORZA)が今回から市原を通るコースとした。

参加著名人は、堺正章・近藤真彦・西田ひかる夫妻・木内みどり等。

103台のクラシックカーと47台のサポートカー合計150台という大規模な国際ラリーとなる。

高滝ダムの風景が撮影に最適ということもあり今年新たにコースに決定したようだ。当然テレビの取材もあるとのこと。見逃すのはもったいない。

ポイントが高滝神社前の加茂橋

10月8日(水) 午前10時55分頃
このあと万田野経由木更津へ向かう。
HP <http://www.lafestam.com>

サークル員募集中

社交ダンスサークル



新戸雅美先生(プロフェッショナルJDC審査員)による懇切丁寧な指導のもと、どなたでも社交ダンスが上達し、いろいろな種目が楽しく踊れるようになります。(初心者歓迎)

レッスン案内
場所: 養老溪谷 老川集落センター
日時: 毎週水曜日19時~21時
連絡先: (96) 1701 佐久間 迄

美しく!! 楽しく!! 気軽に!! あなたの若さに輝きを!!

編集後記

里山通信創刊号では各方面から多数の反響を頂きました。お褒めの言葉あり、励みあり。スタッフ一同 身近な情報を伝える道具としての地区の期待感と責任を感じ始めています。ただし 自分たちが「まず楽しみながら」という姿勢はあくまでも変えないように「無理」は少しだけにして肩の力を抜きながら続けていこうと思っています。

さて 秋本番。加茂の米の出来具合は? 養老溪谷の紅葉に冷夏の影響は? キノコはどうだえ? 地元の話は豊作です。

商工会議所加茂青年部では 秋のシーズンが終わると他の多くの団体の方と一緒に溪谷のゴミ拾いに参加しています。

担当は梅ヶ瀬。年々ゴミの量が減っていることにマナーの向上を感じながら最後の紅葉を楽しませてもらっています。花火大会との違いは 来る人の「昼の問題が質」の違いが解りませんが 祭りの後始末で イベントの良し悪しを論じている裏方さんもおります。

そういえば高滝神社の秋祭は 10月19日です。

発行責任者

大曾根友三(国本 太陽工業(株))
「秋号の発行に正直ホッとしています。情報提供、広告、新規通信員、ご意見、ご要望、大々募集中です。」

編集長
佐久間眞明(朝生原 角屋商店)
「養老溪谷観光協会のホームページも管理しています。紅葉の溪谷にも足を運んでみてください。」

通信員
中村英一(国本 おしゃれショップ中村)
「嗚呼・花の消防団担当。金蔵院も消防仲間。結婚を控えて今の生活態度を改めるのか?」

鈴木 猛(養老 鈴木魚肉店)
「趣味に生きる……さかな屋。魚のことはもちろん、食に関する無駄とも言えるウンチクを語りだす時あり。」

征矢真造(高滝 加茂城旅館)
「こだわりの料理とこだわりの酒。器を褒められるのが楽しみ。ただし一見さんには出さない事にしている。」

戸沢優之(養老 川口屋商店)
「米騒動の当事者です。おいしい加茂の米を楽しみました。PTA会長、高滝湖畔ボート、祭りに東朋会……いつ仕事すたっべ。」

情報提供・取材依頼は近頃の通信員へメールでも受け付けます(文末のアドレスへ) 通信員募集中
季節刊行の里山通信ではスタッフ募集中です。条件は ①月一度程度の編集会議に出られる人 ②取材を始め記事に関する費用は自腹でよいと思う人 ③締切りを守る人 ④楽しくお酒が飲める人 ⑤酒癖のよい人 ⑥出されたつまみに文句を言わない人 ⑦飲食は割り勘で ⑧お酒の飲めない方(未成年の方)も大歓迎! 文章力はなくて結構ですがこちらからの謝礼もありません。申し込み、相談はお近くの通信員まで。

尚、紙面及び記事に関するご意見・お問い合わせは市原商工会議所 市原市五井中央西1-22-25 TEL(22)4305 加茂支部担当 北 まで Eメール kita@icci.ichihara.chiba.jp

次回発行は冬の号予定です